

ハイキングコース はいかがですか。

県鳥獣保護センター

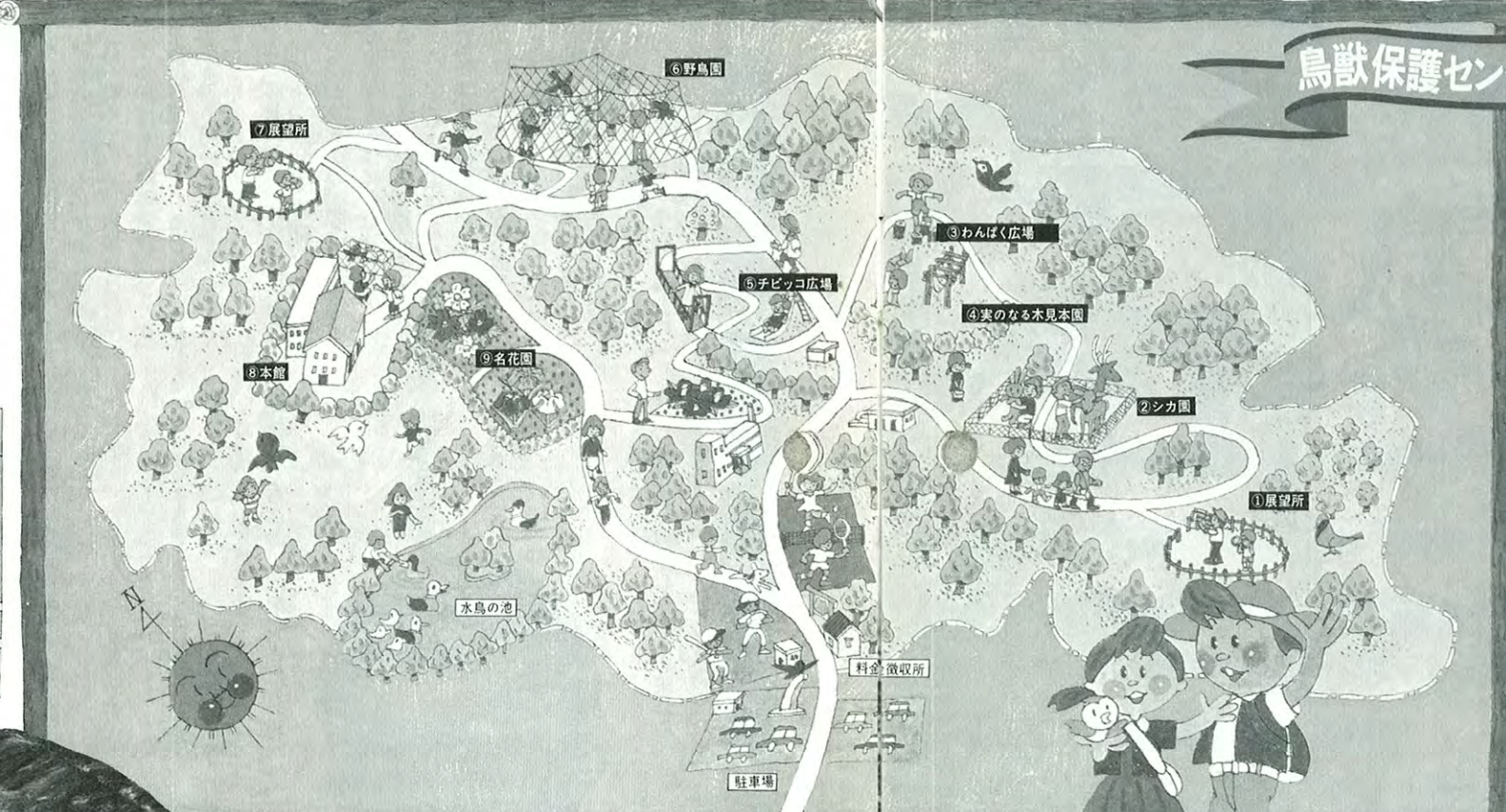
施設紹介

ママさん
特派員
報告

●井上 敏子



鳥獣保護センターマップ



熊本市の南東約十六キロメートル、上益城郡御船町高木の小高い台地上に、西日本では唯一の、そして全国でもトップレベルの規模と施設内容を備えた、野性の小動物や小鳥達との触れ合いの場があります。それが、ここ熊本県鳥獣保護センターです。このセンターは、県民が身近な自然に親しむとともに、自然の豊かさを支えている野性の鳥獣達の保護について考え学ぶ為の場として昭和五十六年十月にオープンしました。

二十一ヘクタールに及ぶ広い敷地内は、クヌギ・ナラ・ヤマモモ等の実のなる広葉樹林におおわれ、ヤマツツジの自生地や杉・ひのきの人工林、谷間からの流水を集めた溜め池など、起伏と自然美に富み、野鳥のさえずりとともに四季折々に変化する緑や花、紅葉が私たちの目を楽しませてくれます。これらの緑の中に、本館や救護舎・野鳥園・シカ園・



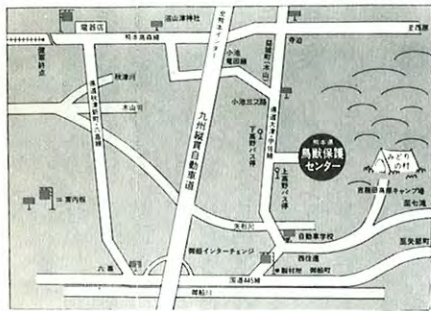
肥後名花園・実のなる木見本園・展示鳥舎・駐車場等の諸施設が、二・六キロメートルに及ぶ探鳥路(遊歩道)に沿うような形で点在しています。

施設の中心をなす本館には、1階にジオラマ・パネル・模型・はく製等による自然や鳥獣愛護に関するテーマ別の展示がされている展示室と、鳥獣関係の相談室や図書室、二階に映写施設を備えた百四十名収容の研修室と備え付けの望遠鏡で水鳥の池等で遊ぶ野鳥を観察することができる展望室があります。この室でバードウォッチングができると聞いて早速私も望遠鏡をのぞいてみました。夏のあつぱら朝など、十分間にヒヨドリ・ホオジロ・ウグイス・カワセミ・カルガモなど十二種類にものぼる野鳥が観察されたとのことですが、ちよつとのぞいただけで、私もカルガモとコサギを見ることができました。ご案内いただいた係の今村さんのお話では、野鳥の観察は冬がベストで、この室からのバードウォッチングで約三十種類園内の探鳥路を歩くだけで二十〜三十種類の野鳥が見られるとのことです。乱開発や公害などで身近な自然が破壊されるにつれて、私たちのかわらぬ姿を消しつつある野鳥た

ちが、環境を整備し、きちんと保護さえしてゆけば私たちのもとに帰って来てくれることを知って、自然を守ることの大切さを再認識させられました。ヨーロッパの諸都市では至る所に緑の森や林や木立ちのある公園があって、小鳥やリス達が人を恐れようともしないで、憩いに来た人々の手から餌を食ったり遊んだりしてのびのびと遊んでいます。熊本の地でもそのような光景がごく日常的に見られるようになったらどんなに素晴らしいことでしょうか。その意味でも、鳥獣保護思想の普及、啓蒙を業務の柱とするこの施設を今まで以上に利用していただければと思います。

センターでは皆様方のご利用のために、「センター利用のしおり」、「自然観察の手引き」、「野鳥観察の手引き」等を作られ、また、夏休み期間中は、小・中学生を対象に自然観察会などを開催しておられます。自然観察のための教育の場としても最適といえそうです。この他にもキジ・コジュケ

広場と野鳥園をつなぐつり橋「ひばり橋」



館内に展示されている「モア」のはく製の前で井上さん

イ・ウズラ・ヤマドリなど、約百羽が自然に近い状態で身近に見える野鳥園や、ウサギや

シカが餌をねだりにくるシカ園、県内で捕獲された傷病鳥獣を収容してある救護舎など、詳しくご紹介したい施設がたくさんありますが、まずは気軽に深まりゆく秋を訪ねてハイキングや、当節流行の森林浴にお出かけになつたらいかがでしょう。

鳥獣保護センター本館

